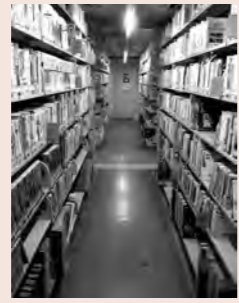


**Service News** サービス・ニュース

## 閉架書庫ってどんなところ?!

検索をしていて、本の配架場所が「閉架書庫〇層」と表示されているのを見たことはありませんか?

当館には直接本を手にとることができる開架式の本棚だけでなく、一般の利用者の方は入ることのできない閉架書庫があります。閉架書庫には、表には出しきれなかった本の他に、新聞、雑誌のバックナンバーやかつての東京市立図書館が所蔵していた本などが保存されています。残念ながら中には入れませんが、書庫の本を読んだり借りたりすることは可能です。



## 閉架書庫にある本を読みたい場合は…

OPAC(館内検索機)で資料情報のレシートをプリントするか、備え付けの「閉架資料請求用紙」に必要事項をご記入の上、2階図書フロアカウンターへお申込みください。スタッフが書庫から本を取り出してお渡します。



※閉架書庫の本は、読み終わりましたらカウンターへお返しください。借りる場合は、貸出の処理が必要です。

月ごとに並べられ、出番を待つ新聞たち。

9月のデータベース講座のご案内

**日比谷データベース講座VOL.9**  
「Mpacを使ったマーケットシェアや市場規模の調べ方」

▶ 9月14日(月) 12:15-13:15 / 18:30-19:30  
※講座概要は各回とも同じです

■ 場所: 2階図書フロアカウンター前 ■ 参加費: 無料

事前申し込みは不要、当日は直接会場へお越しください

**日比谷カレッジ報告**

菅谷明子講演会  
米国メディア激変に見る  
社会に不可欠な情報とは

■ 講師: 菅谷明子 (在米ジャーナリスト)

報道ジャーナリズムのそもそもの使命は何か、社会が必要とする情報とは何か、プロによる調査報道の今後のあり方や市民参加の新しい動き、リテラシーの益々の重要性も含め、テクノロジーにより急速に変化する米国の事例を数多くご紹介いただきました。大雨にも負けず全国から集まった参加者の皆様と共に、将来への期待と新たな指針を得た刺激的な2時間でした。

7/8 (水)

「図書館なしでは今の自分にはなかった、旧日比谷図書館が一番よく通った図書館でした」と菅谷さん。

**ZONE PICK UP!** 2F オレンジゾーン  
【法律・政治・ビジネス・統計・参考図書】の本を集めたゾーン

各ゾーン巡回展示

## 〇〇論・〇〇史

まるまる 11/13

図書フロアの4つのゾーンで、順番に「〇〇論・〇〇史」という共通のテーマのもとに展示を行う企画が始まりました。ゾーンごとの書架にある本の特色を活かしながら、〇〇に当てはまる言葉を選び、関連本をご紹介します。トップバッターのオレンジゾーンでは、社会科学系やビジネス系の本を集積したゾーンならではの切り口で、「男性論・女性論」など随時テーマを入れ替えながら展示していきます。



同じテーマでも様々な角度から論じられている本を読むことにより、視野が広がるかもしれません。

**9 月の展示情報** Exhibit Information

**2F パープルゾーン** 「徳川家康 四百年忌」(～9/18)  
家康公四百年忌となる今年、彼について書かれた資料文献を展示し、故人を偲ぶと共に、戦国乱世から天下泰平の世を夢見たその物語をご紹介します。

**2F ホール** 日比谷カレッジ「企業やブランドとデザインのかかわりはどこに?」  
関連展示(～9/11) **NEW!**

**3F ホール** 「特選名著複製全集」複製ではなく、複製。(ガラスケース)  
「徳川家康 四百年忌」関連展示(ガラスケース、～9/18)  
「千代田区生きものさがし 2015」

**3F ブルーゾーン** 「〇〇論・〇〇史」(～12/18) **NEW!**  
各ゾーン巡回展示の第2弾は、ブルーゾーンの特徴でもある芸術、文学、そして映画にジャンルを絞り、気になるワードを取り上げ更新していく展示です。

**3F グリーンゾーン** 「私とはなんだろうーアイデンティティー」(～10/16)  
「自分とは何か」をテーマに様々な視点からアイデンティティにまつわる本を紹介しています。実は一番知らないかもしれない自分を、本を通してみつめてみませんか。

**わたしの一冊**

「氷菓」

米澤穂信 著

古典部シリーズの第一弾として出版された『氷菓』。省エネ主義の少年・折木奉太郎が、古典部の仲間たちと共に過去に起きた事件を推理し成長していきます。推理パートもよく説明されており、普段ミステリーを読まない人でも簡単に読めるので、軽いミステリーをお探しの方は是非一度手に取ってみてください。

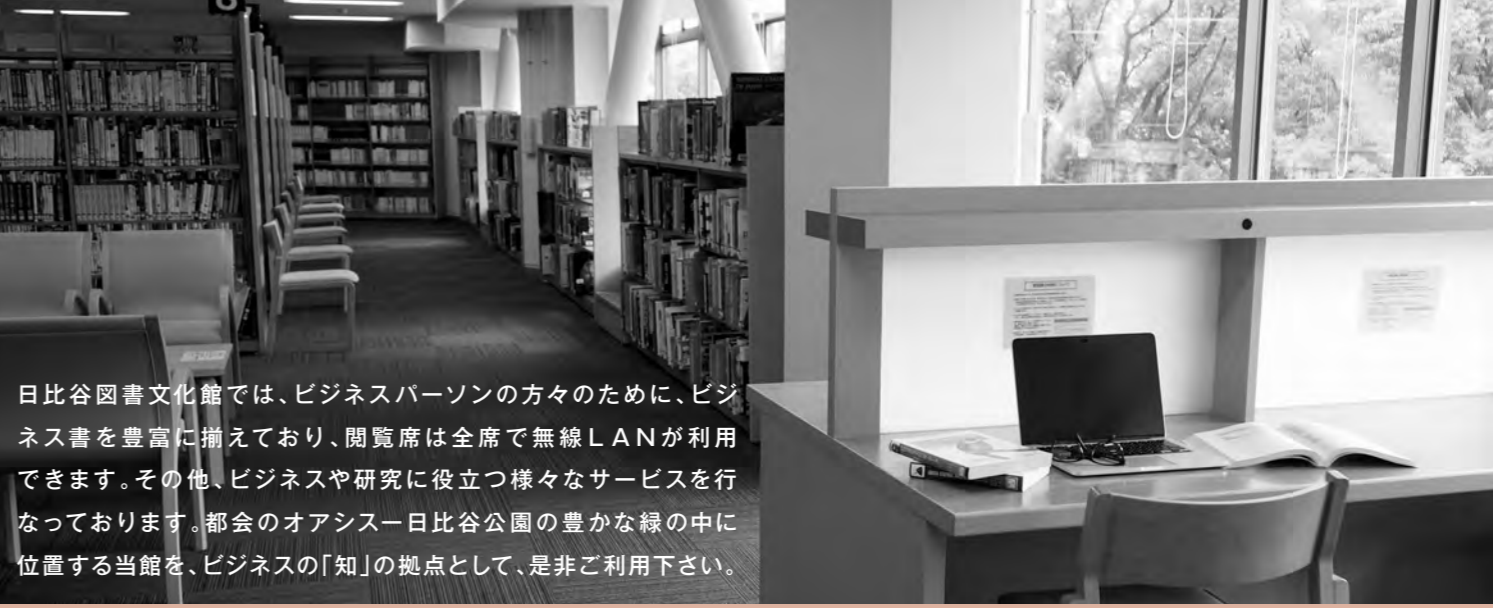
当館スタッフの推薦本を紹介し、おすすめする図書フロア 植田隆広

KADOKAWA / 2001年

主人公の奉太郎は、古典部入部をきっかけに日常が変化し始める。文集『氷菓』とは、また『氷菓』というタイトルに込められた思いとは…。

## 千代田区立日比谷図書文化館 広報誌

# ビジネスパーソンのための「知」の拠点。日比谷



日比谷図書文化館では、ビジネスパーソンの方々のために、ビジネス書を豊富に揃えており、閲覧席は全席で無線LANが利用できます。その他、ビジネスや研究に役立つ様々なサービスを行っております。都会のオアシス・日比谷公園の豊かな緑の中に位置する当館を、ビジネスの「知」の拠点として、是非ご利用下さい。

### オンラインデータベース

■ ビジネス情報を知る

Online Databases

16種類のオンラインデータベースをご利用いただけます。過去の新聞・雑誌の記事やビジネスに役立つ企業情報、市場情報、法律情報などをすばやく、網羅的に調べることができます。定期的にデータベース講座を実施しています。

### 日比谷カレッジ

■ ビジネスパーソンのスキルアップ

Hibiya College

「日比谷カレッジ」ではビジネスパーソンの方に向けて、企業の第一線で活躍されている方の講座や、大学研究者とのコラボレーションによるセミナー、ワークショップ等を多数開催しています。ビジネスのスキル向上に役立ちます。

### 特別研究席

■ ビジネスや研究のための快適空間

Study Room

全32席に電源コンセントと無線・有線LANを備えるほか、特別研究室の蔵書を自由に閲覧できます。快適なスタディールームとして、ビジネスパーソンに人気です。

▶ 開室時間: 平日10時～20時 土曜10時～18時 日曜・祝日10時～16時

▶ 利用料金: 300円/2時間(2時間単位で延長可)

## Hibiya Library & Museum

calendar 開館時間: 平日10時～22時 ■ 土曜10時～19時 ■ 日祝10時～17時 ■ 休館日

2015年 9月							2015年 10月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5				1	2	3
6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10
13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17
20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24
27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31

access

都営地下鉄  
●三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分  
東京メトロ  
●丸ノ内線  
●B2出口  
徒歩3分  
●千代田線  
「霞ヶ関駅」C4出口 徒歩3分  
JR「新橋駅」徒歩10分

※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

お問合せ先: 千代田区立日比谷図書文化館  
〒100-0012 千代田区日比谷公園1-4 TEL: 施設代表 03-3502-3340  
図書総合カウンター 03-3502-3343 URL: <http://hibiyal.jp>

# 9・10月の講座

〈参加申込〉電話(03-3502-3340)またはEメール(college@hibiyal.jp)にて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。当館1階の受付でもご予約を承ります。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。

**千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。**

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

## 9/11 (金) 企業やブランドとデザインのかかわりはどこに?

講師:川島 蓉子(伊藤忠ファッションシステム株式会社取締役、ifs未来研究所所長)  
景気が良くなったと言われる中でも、不安定な社会状況は続いています。しかし、そこに「デザイン」がかかわることで未来が拓けてくるはず。その未来に、私はいますか?をテーマとする未来研究所所長の川島蓉子氏が企業やブランドとデザインのかかわりについてお話しします。



- 日時:9月11日(金)19:00~20:30(18:30より受付)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ■定員:180名 ■参加費:1000円

## 9/12 (土) HIBIYAイノベーション・キャンパス2015 ワークショップ初級編:『右脳と左脳で0から1を生むワークショップ』

講師:富田 欣和(慶應義塾大学大学院SDM研究科特任講師)  
渡辺 今日子(慶應義塾大学大学院SDM研究科特任助教)  
山本 絵里子(慶應義塾大学大学院SDM研究所研究員)



思いつきのアイデア頼みでは、新しい価値を継続的に生むことはできません。問題をシステムとして捉え可視化・構造化する「システム思考」。多様性を活かし人間中心で物事を設計する「デザイン思考」。この両輪を操りイノベーションを作り出す、基本的な方法を学びます。(共催:慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント(SDM)研究科附属SDM研究所イノベティブデザインセンター)

- 日時:9月12日(土)13:00~17:00(12:30より受付)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員:40名 ■参加費:3000円

〈次回予告〉ワークショップ実践編:『イノベティブ思考が育つワークショップのデザイン』  
■日時:10月21日(水)19:00~21:00(18:30より受付)  
■会場:4階セミナールームA(会議室) ■定員:24名 ■参加費:2000円

## 9/14 (月) 江戸歴史講座第34回 錦絵誕生250年記念 浮世絵と江戸の大地震~鯨絵とよみがえる情景

講師:藤澤 紫(國學院大学文学部教授 特別専任)  
安政2年10月、江戸を未曾有の地震が襲いました。「鯨絵」には庶民の地震への恐れや祈りがユーモラスに描かれています。広重の「名所江戸百景」にも、復興の情景を報道する役割がありました。鯨絵や浮世絵の鑑賞を通じて、地震と江戸のメディア、江戸っ子の感性を学んでみませんか?



「鯨と要石」国際日本文化研究センター蔵

- 日時:9月14日(月)19:00~20:30(18:30より受付)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ■定員:200名
- 参加費:1000円(千代田区民500円)

## 9/17 (木) 『平家物語』を、よむ・わかる・かたる(全3回) 第1回『平家物語』の読みどころ —その「もののあはれ」—

講師:林 望(作家・国文学者)  
『謹訳平家物語』を手がける林望氏が、その文学性、朗唱性、芸能性について、様々なアプローチを試みます。軍記物語の白眉というべき『平家物語』には、殺伐とした戦闘や興亡のことだけでなく、「もののあはれ」というべき文学性があります。物語全体を見渡して読みどころを指摘し、朗読を交えて読み解く講座 第1回。



(主催:上野 第1回は定員に達した為 受付を終了しました。)  
■日時:9月17日(木)19:00~21:00(18:30より受付)  
■会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)  
■定員:200名 ■参加費:500円(千代田区民及び学生は無料)  
※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。

〈第2・3回予告〉  
10月22日(木)18:30~20:30  
『平家物語』を「訳す」ということ —ピーター ジェイ マクミラン氏を迎えて—  
ゲスト:ピーター ジェイ マクミラン(杏林大学各員教授)  
11月26日(木)18:30~20:30  
『平家物語』を「語る」という試み —三遊亭金朝師匠を迎えて—  
ゲスト:三遊亭 金朝(落語家)(9月25日申込受付開始)

## 9/18 (金) 近代日本のメディア戦略 —新聞社主導のイベントの展開

講師:山本 武利(早稲田大学名誉教授、NPO法人インテリジェンス研究所理事長)  
日露戦争(1907-1908)を境に「商業新聞」に変化した近代日本の新聞。その転換期の中で現れた新聞社主催の講演会や展覧会、博覧会といった各種のイベントについて、その開催にはどんな意義があったのか、一般大衆はそれらのイベントをどのように受け入れていったのかについてお話いただきます。



夕刊大阪新聞社主催「科学の日本大展覽会」昭和7年(1932)『明治・大正・昭和の流行をみる 広告絵はがき』林宏樹/2004年/里文出版より

- 日時:9月18日(金)19:00~20:30(18:30より受付)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員:60名
- 参加費:1000円

## 9/19 (土) ピースビレッジ第35回 なぜ世界の課題は解決されないのか。~欠乏を補う効力感から調和の世界への転換の道筋を考える

講師:由佐 美加子(合同会社CCC パートナー)  
なぜ貧困問題、環境問題、紛争問題など、不本意な現実が生まれ続けるのでしょうか。現実がどうやって創り出されているのかは、人間の内的なメカニズムをひも解いていくと、その仕組みを理解できます。行動を創り出す信念、メンタルモデルをバージョンアップするプロセスとその可能性をお話します。(主催:NPO法人世界連邦21世紀フォーラム)



- 日時:9月19日(土)14:00~16:30(13:30より受付)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール) ■定員:60名 ■参加費:3000円

## 9/24 (木) 古書で紐解く近代史セミナー第15回 大正・昭和初期における海外移住の理想形とは何か ~日比谷図書館文化館の海外移住関連図書から~

講師:森田 健太郎(特別研究室ナビゲーター)  
日比谷図書館文化館が所蔵している内田嘉吉文庫をはじめとする戦前の海外移住関連資料を紹介しながら、内田嘉吉ら大正・昭和期の人々が海外移住の必要性についてどのように考え、何を海外移住の成功と考えたのかについてお話します。



通信省管船局長時代の内田嘉吉

- 日時:9月24日(木)19:00~20:30(18:30より受付)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員:60名
- 参加費:500円(千代田区民 無料)

## 9/30 (水) 図書館建築を読む 第3回「知の要塞化というモダニズム」

講師:桂 英史(東京藝術大学大学院教授)  
強くて機能的な建築は、国家や「知は国家なり」という国民国家を示すようになりました。図書館建築にもその美意識は如実に反映されることになりました。「図書館建築を読む」(全4回講座)の第3回では、国民国家という観点から、図書館建築についてお話しします。(協力:河出書房新社)



- 日時:9月30日(水)19:00~21:00(18:30より受付)
  - 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
  - 定員:200名 ■参加費:1000円
- <第4回予告> 11月25日(水)「図書館と都市」(9月25日申込受付開始)

## 9/30 (水) 展覧会への入口講座 vol.16 東京ステーションギャラリー×日比谷図書館 木版詩画集『月映』とその背景

講師:田中 晴子(東京ステーションギャラリー学芸課長)  
珠玉の作品集『月映』は、20代前半の美術学生、田中恭吉、藤森静雄、恩地孝四郎らによる百年前の木版詩画集です。木版画による表現は主流ではない時代、あえて自ら・自刻による木版画にこだわり、創作版画史にその名を刻みました。公刊『月映』(洛陽堂)とそれに至るまでの背景などを紹介します。



藤森静雄《亡びゆく肉》1915年発行愛知県美術館蔵

- 日時:9月30日(水)19:00~20:30(18:30より受付)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員:60名
- 参加費:1000円(千代田区民500円)

## 10/1 (木) お江戸ほーりー文化講座 覗いてみよう! 原寸江戸時代~『江戸名所図会』秋・冬編~

講師:堀口 菜純(文化人・タレント)  
4月に開催した「江戸名所図会 春・夏編」に続く第2弾。七夕に秋祭り、紅葉に年の市……今回もお江戸(江戸にくわすぎるアイドル)ほーりーこと堀口菜純が、立秋から大寒までの江戸っ子の暮らしを『江戸名所図会』でクローズアップします!(主催:株式会社ネットアドバンス)



- 日時:10月1日(木)19:00~20:30(18:30より受付)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員:60名 ■参加費:1000円

## 10/7 (水) 江戸歴史講座第35回 EDO ART EXPO関連講座 武士の表道具 —江戸時代の刀剣外装—

講師:池田 宏(東京国立博物館 上席研究員)  
江戸時代、武家の象徴でもあった大小の刀。刀をおさめた柄や鞘、鐔をはじめとした刀装具の製作は、技術的にも高度に発達しました。太刀と刀の相違をはじめ、登城の際の服装や刀の形式などに触れながら、刀剣の外装について紹介します。



沃懸地葵紋時経螺鈿打刀(部分)江戸 19世紀 東京国立博物館蔵

- 日時:10月7日(水)19:00~20:30(18:30より受付)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名 ■参加費:1000円(千代田区民500円)

## 10/13 (火) 日比谷オペラ塾・特別講演会 ブルー・アイランド先生、「アリアの歴史」を語る。

講師:青島 広志(作曲家) 共演:小野 勉(テノール)  
さまざまな視点からオペラの魅力を楽しむ「日比谷オペラ塾」。今回は、2015/2016シーズン<前期>の特別講演会として、作曲家としても大活躍、テレビでもおなじみの著名なブルー・アイランド氏こと青島広志氏に、オペラにおけるアリアの歴史を通して、その魅力を存分にお話いただきます。(主催:フェニーチェ劇場友の会)



- 日時:10月13日(火)19:00~20:30(18:30より受付)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名 ■参加費:1800円

## 10/21 (水) 展覧会への入口講座Vol.17 三菱一号館美術館 × 日比谷図書館文化館 プラド美術館—フランドル絵画へのいざない

講師:安井 裕雄(三菱一号館美術館学芸グループ副グループ長)  
1819年開館のプラド美術館は、ハプスブルク家、ブルボン家の歴代のスペイン国王の蒐集品を継承し、所蔵品は王侯貴族の嗜好が色濃く反映しています。なかでも初来日となるボスを中心としたフランドル(現在のベルギー、オランダ、フランスの一部)絵画を紹介します。



- 日時:10月21日(水)19:00~20:30(18:30より受付)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名
- 参加費:1000円(千代田区民500円)

アントン・ラファエル・メンクス《マリア・ルイザ・デ・バルマ》1765年 油彩、カンヴァス 48×38cm プラド美術館蔵 ©Archivo Fotográfico, Museo Nacional del Prado, Madrid.

## 古文書塾てらこや体験講座

「古文書塾てらこや」は古文書専門塾として、初心者から経験者まで楽しみながら学習を進めています。4月期の開講に合わせ、この度古文書の世界に無理なく入っていける「体験講座」をご用意いたしました。各コース別の体験講座実施日は下記の通りです。まずは体験講座をお試ください。

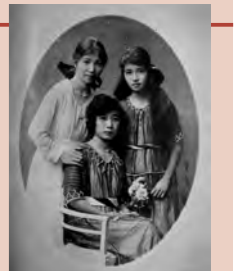
体験講座 各回 1000円

	講座名	曜日・時間	初回目
入門コース 120分	古文書のいろは 筆字のくずし字	(火) 10:10~ (火) 13:30~ (木) 13:30~ (金) 18:30~	9/15 9/15 9/17 9/25
	いろはの次 江戸時代の海外知識	(金) 10:10~	9/18
本科コース 120分	文人画と碑文一掛軸を読む	(月) 18:30~	9/14
	武家文書を読む 一老中みる幕府官僚事情	(水) 13:30~	9/30
	江戸のコミック(黄表紙)と滑稽本を読む 絵と文字で楽しむ江戸歌舞伎(応用編)	(金) 18:30~ (土) 13:30~	9/18 9/26
特別講座 90分	大久保利通の手紙を読む	(火) 19:00~	9/29
	女性の風俗を読む	(水) 19:00~	9/30
	江戸を楽しむ 一統・江戸の寺社あれこれ 絵と文字で楽しむ江戸歌舞伎(入門編)	(木) 18:30~ (土) 10:30~	9/24 9/26

■参加費:各回1,000円 ■会場:4階セミナールーム(会議室) ■資料請求:体験講座のお問合せ:電話(03-3502-3340) 日比谷図書館文化館 古文書塾てらこや担当迄

## 特別研究室ミニ通信

■特別研究室企画展示  
内田嘉吉文庫に見る 日本人移民の歴史 ~ハワイ移民130年の節目に考える海外移民政策~  
リオ・デ・ジャネイロで小学校教師となった日本人移民(永田綱著『南米一巡』より)



▶9月27日(日)まで開催中  
ハワイ官約移民130年という節目の年にちなんで開催中の本展示は、後半からはブラジルを中心とする南米への移民関連資料を展示しています。後にブラジル・アリアンサ移住地建設に尽力した永田綱著『南米一巡』(日本力行会/1921年)をはじめとする視察報告や各国事情、移民のための指南書などさまざまな面から南米移民について紹介します。

## ポモー又広報室より

最近では社会に出てからも資格取得や自主勉強することが当たり前になってきました。学習する上で「環境」は大切です。日比谷図書館文化館はアクセスしやすい立地に平日は開館時間が22時まで、閲覧室をはじめ電源のとれる席や有料席、豊富な蔵書とデータベースの利用などビジネスパーソンにとって最適な環境が整っています。なにより、多くの方が机に向かい学習している姿は励みになります。自宅・職場以外の新しい3番目の場所、サードプレイスとして是非ご利用ください。